

2017

**Next30 産学  
フォーラム**

**報告書**

2018年6月

一般社団法人中部経済連合会

---



## はじめに

Next30 産学フォーラムは、次の 30 年 (Next 30 Years) を担う若手のネットワーク作りを目的とした産学の異分野・異業種交流会です。中経連では、2011 年 10 月より大学に会員として入会いただき、産業界と学界とのより緊密な関係を構築すべく、2012 年 4 月に産学連携懇談会を立ち上げると同時に、「Next30 産学フォーラム」を開始しました。

従来の産業界と学界との繋がりとしては、学会やマッチングイベント等を契機とした共同研究などがありますが、目的が限定されるために関係が単発的になりがちであり、新しい連携の芽を育みにくい側面がありました。また、昨今の人材育成の議論においては、多様な価値観を受け入れられるグローバル人材育成の重要性が指摘されていますが、現状の若手研究者・企業人は、自分の研究分野や職務に没頭しがちであり、外国はおろか、地域の優れた人材との出会いや、多様な思考を受け入れる機会に乏しいのが実態です。

そこで、「Next30 産学フォーラム」では“人的ネットワークづくり”と“多様な価値観に対する気づきの場づくり”を目的に産学の多様な話題を提供しながら継続的に開催し、即物的な成果よりも、まずは相互理解を深め、新たな発想や啓発の機会を作ることに主眼を置いて活動を進めてきました。6 年目となる 2017 年度は、参加大学数は前年度の 19 校から 21 校に拡大し、多様な研究分野の講師陣からご講演頂いた他、ワークショップやグループディスカッションによる参加者同士の会話・交流を促す仕掛けづくり、見学会の開催等、参加者に多くの刺激を感じてもらい、かつ見聞を広めてもらう企画を実施してきました。

本報はこの 1 年の概要を記録したものであります。産学連携に携わる方々にとって、一つの参考としてご覧頂ければ幸いです。

2018 年 6 月

一般社団法人中部経済連合会

## 目次

1. 体制・組織	3
2. フォーラム実施概要	
1) 参加者	4
2) 構成（講演や各種の企画イベント）	5
3) フォーラムの雰囲気	6
3. 参加者の声（アンケート結果まとめ）	
1) 参加のきっかけ、目的	8
2) 講演への意見	9
3) ワークショップ・グループディスカッションへの意見	11
4) 大学と企業との共同発表への意見	14
5) ポスターセッションへの意見	15
6) 見学会への意見	17
7) その他自由意見	18
8) 満足度	19
4. 準備会(大学での開催)	20
5. フォーラム活動から派生した事例	21
6. 総括	21

## 1. 体制・組織

2017年度は会員となって戴いている21大学より、産学交流に関心の高い新進気鋭の先生を1名ずつご推薦いただき、以下のコアメンバーを組織した。基本的には隔月で奇数月にフォーラムを開催し、フォーラムの運営・企画について調整する準備会をフォーラム前月（偶数月）に開催した。内容についてはアンケート等で振り返り、改善案を次回のフォーラムに反映させる仕組みとした。

表1 2017年度コアメンバー

大学	所属	役職	氏名
愛知県立芸術大学	美術学部 美術科 油画専攻	准教授	白河 宗利
愛知県立大学	情報科学部 情報科学科	教授	小林 邦和
愛知工業大学	情報科学部 情報科学科	准教授	梶 克彦
愛知淑徳大学	創造表現学部	准教授	宮田 雅子
愛知大学	経営学部	准教授	一木 毅文
岐阜大学	応用生物科学部	准教授	椎名 貴彦
岐阜薬科大学	生命薬学大講座 生化学研究室	講師	遠藤 智史
金城学院大学	生活環境学部 環境デザイン学科	講師	伊藤 海織
大同大学	情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻	准教授	棚村 壽三
中京大学	総合政策学部	教授	坂田 隆文
中部大学	人文学部 歴史地理学科	准教授	渡部 展也
東海学園大学	経営学部	准教授	山田 裕昭
豊橋技術科学大学	電気・電子情報工学系	助教	坂井 尚貴
名古屋学院大学	経済学部	准教授	秋山 太郎
名古屋経済大学	経営学部	准教授	山下 幸裕
名古屋工業大学	大学院工学研究科電気・機械工学専攻	助教	岩本 悠宏
名古屋市立大学	看護学部	助教	細川 陸也
名古屋大学	未来社会創造機構	特任准教授	田中 貴紘
南山大学	総合政策学部	准教授	O'CONNELL, Sean
三重大学	地域イノベーション推進機構	助教	加藤 貴也
名城大学	農学部 生物資源学科	准教授	塚越 啓央



図1 活動のステップ

表2 2017年度活動実績

	第32回	第33回	第34回	第35回	第36回	第37回
準備会	4/17	6/22	8/8	10/11	12/11	2/7
フォーラム	5/31	7/27	9/22	11/24	1/22	3/20
アンケート	6/1	7/28	9/25	11/27	1/23	3/22

## 2. フォーラム実施概要

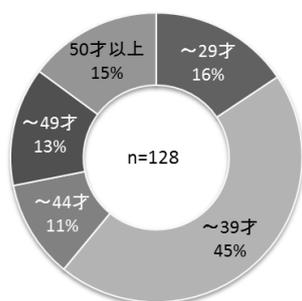
### 1) 参加者

フォーラムは計6回開催し、1回あたり平均36名、延べ216名が参加した。参加者は40歳前後が中心で、企業からは、「研究・開発」や、「営業・人事・企画」などを中心に様々な職種の方々に参加頂いた。各回において初参加の割合は平均で37%であり、年間の参加者全体のうち25%の人は複数回参加している。

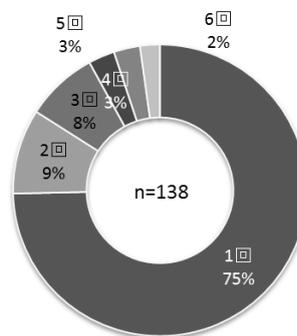
表3 参加者概要

	日時	場所	全体		企業			大学			
			人数	うち新規	社数	人数	うち新規	校数	人数	コアメンバー除く	うち新規
第32回	5/31	中経連	48	25(52%)	20	27	17(62%)	11	21	11	8(38%)
第33回	7/27	中経連	54	20(37%)	23	32	15(47%)	14	22	10	5(23%)
第34回	9/22	豊橋市	28	12(43%)	13	18	11(61%)	8	10	2	1(10%)
第35回	11/24	名城大	31	8(26%)	10	12	3(25%)	10	19	8	5(26%)
第36回	1/22	中経連	27	6(22%)	11	15	6(40%)	9	12	3	0(0%)
第37回	3/20	中経連+名古屋市内	28	9(%)	13	16	5(%)	9	12	5	4(%)
計			216	80(37%)	90	120	57(48%)	51	96	39	23(24%)

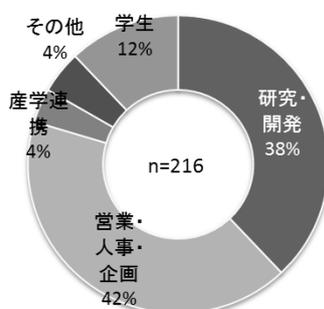
平均年齢 38.1 歳



(a) 年齢構成



(b) 参加回数



(c) 職種構成

図2 参加者属性



### 3) フォーラムの雰囲気

#### ○第 32 回



坂井 助教  
豊橋技術科学大学



坂田 教授  
中京大学



(上：ワークショップの様子)  
(下：懇親会時の研究紹介)

#### ○第 33 回



オコネル 准教授  
南山大学



梶 准教授  
愛知工業大学



ポスターセッションによる発表  
左：名古屋経済大学・山下准教授  
右：大同大学・棚村准教授

#### ○第 34 回



田中 特任准教授  
名古屋大学



秋山 准教授  
名古屋学院大学



(上：質疑応答の様子)  
(下：懇親会の様子)  
於：豊橋商工会議所

○第 35 回



白河 准教授  
愛知県立芸術大学



塚越 准教授  
名城大学



(上:社会連携ゾーン「Shake」での講演)  
(下:懇親会の様子)  
於:名城大学ナレッジ・ルーム前キャンパス

○第 36 回



椎名 准教授  
岐阜大学



山田 准教授  
東海学園大学



ポスターセッションによる発表(衝立付近で説明)  
左:三重大学・加藤助教  
右:名古屋市立大学・細川助教

○第 37 回



遠藤 講師  
岐阜薬科大学



伊藤 講師  
金城学院大学



(上:見学会の様子 於:グリーンサイクル株)  
(下:ワークショップの様子)

図 3 フォーラムの様子

### 3. 参加者の声（アンケート結果まとめ）

#### 1) 参加のきっかけ、目的

参加募集は、会員企業へのチラシ郵送、メールマガジン、参加履歴のある方へのメールのご案内などで行っており、各回において参加者全体の約3割の方が初めて参加している。きっかけとしては、社内の関係者からの紹介が7割以上を占めているが、業務命令としてではなく自由意思で参加する方が多い。

また、2回以上参加されている方は、「内容に関わらず参加するつもりだった」が約半数を占め、次いで「講演テーマに興味があった」、「ワークショップ・グループディスカッションに興味があった」が約2割を占めている。多くの方は、普段触れることができない新たな知識を得るため、あるいは参加者とのコミュニケーションによる多様な価値観に対する気づきを得るために、高い目的意識をもって参加している。こうしたこともあり、参加にあたっての目的・期待としては、「人脈づくり・交流」がトップで、次いで「知識・教養のため」となっている。

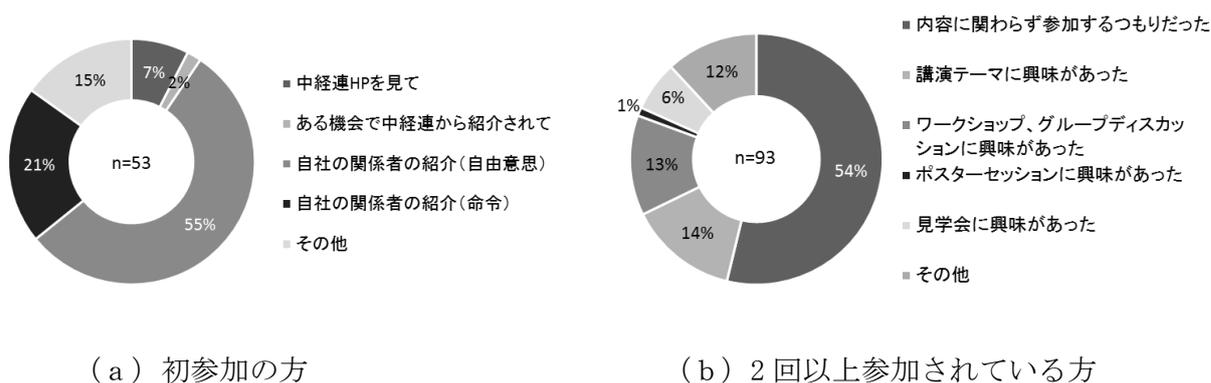


図4 参加のきっかけ

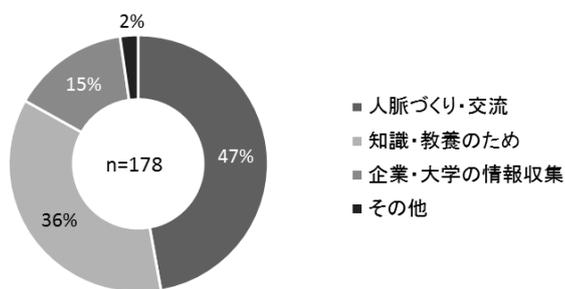
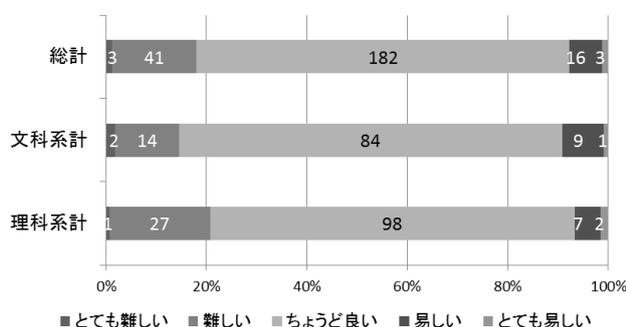


図5 参加の位置づけ、狙い

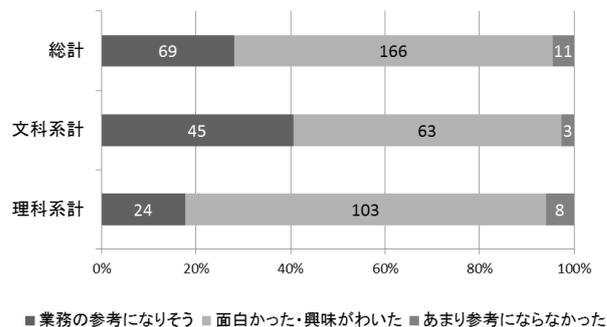
## 2) 講演への意見

講演は文科系・理科系のコアメンバーより、多岐にわたる研究分野を紹介して参加者に多くの気づきを提供した。

講演の難易度は、理科系の講演において2割の参加者から「難しい」という回答があったが、全体では7割強の参加者から「ちょうど良い」との回答を頂いた。また、講演の感想は、「業務の参考になりそう」「面白かった・興味がわいた」という回答が9割強に上り、専門外の分野でも多くの参加者がコアメンバーの研究内容について理解を深めた。自由意見では、業務等で参考となる知識・情報の取得、新たな気づきや刺激の享受、今後の研究成果への期待など、数多くの高評価を頂いた。



(a) 講演の難易度



(b) 講演の感想

(c) 自由意見 (○：企業の意見 ●：大学の意見)

### <異分野の講演は興味深い、勉強になった>

- コミュニケーションに関わる認識をアップデートすることができた。異文化というのは、何も国や地域だけでなく年代や立場が違えば異文化であると思うので、身近な事例に照らし合わせて考える良い機会であった。
- 自身の業務が製造業に対する営業なので、イノベーションの歴史や、どのように経済が動いているかということを客観的に考察出来る非常に有意義な時間でした。
- 学生時代は油絵を描いていたこともあり大変興味深く聴講させていただきました。特に光と影のつけ方については取り組んでいたテーマでもあり勉強になりました。

### <業務や趣味などの参考としたい>

- 大学と企業の連携は異文化交流です。いまだにお互い打ち解けずにいます。仕事が本日の講師のような異文化のつなぎ役ですので、大変参考になりました。
- 苦手なプレゼンをさせていただける機会をつくっていただき、課題もみつきり、参考になりました。
- これまで絵画鑑賞する際になんともなく見ており、また絵画の評価についても感覚的なものだという認識だったのですが、空気感や臨場感などを伝えるためにある意味科学的な裏付けによる技術が駆使されていることを知ることができました。

#### <新たな気づきを得た、刺激を受けた>

- 獣医学は動物のための医学ではなく、人間のための医学というメッセージは今までの自分にはない考えでした。
- 絵画についての知識が全くなく西洋絵画がどういったものかわからないまま参加するというかたちになりましたが、実際に白河先生が描かれた絵を見たときは色の一つ一つの細かさに驚きました。絵画を手にとって間近で見るとはなかなかないのでとても感動しました。

#### <今後の取り組みに期待>

- 今後のワイヤレス給電方式の実用化へ向かう重要な基礎技術であり、今後の展開が楽しみです。いろいろな分野での応用が出来そうだと感じました。
- 自分自身の業務に直接的に関係することはないが、こういった研究が未来の新しいビジネスの創造につながっていることを強く認識した。
- 薬の売り上げに対する開発費の割合が17から20%と他の業種に対してかなり大きいですが、人間の体調を整える等役割は大であるため、どんどん研究に励んでいただきたい。

#### <もう少し詳しく聞きたい>

- ワイヤレス給電そのものをわかりやすく伝えようとする先生の気持ちが伝わってきた。実演もあり、見せ方は良かった。個人的には、難しくてもいいので、もうちょっと、先生の研究のアカデミックなところを聴きたかった。
- 他の参加者と話し合いながら意見をまとめるのは楽しかったです。模範解答を用意していればもっと良かったと思います。講演の内容は少しレベルと速度が速かったように感じました。
- 精一杯わかりやすく講演して下さっているとは思いますが、専門用語が次から次へと飛び出てきて、その度に理解しようとするエネルギーが削がれてしまった。

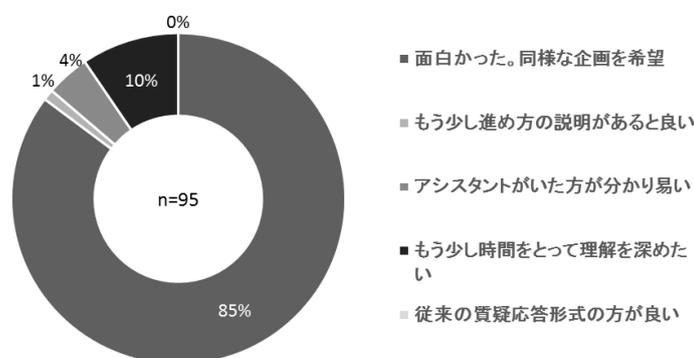
図6 講演への意見

### 3) ワークショップ・グループディスカッションへの意見

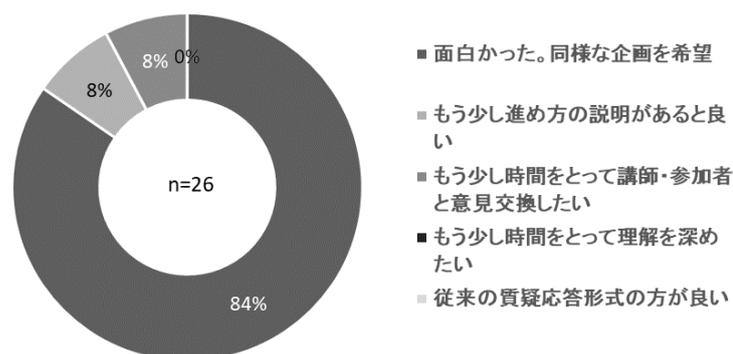
今年度も、ワークショップ(第32回、第35回、第36回、第37回)、グループディスカッション(第33回)を積極的に取り入れ、参加者同士の会話・交流を促すきっかけづくりに努めた。

ワークショップでは、面白かったという意見が約8割を占め、多くの方に好評を頂いた。また、自由意見では、「業務の参考にしたい」「楽しい、有意義な時間が過ごせた」等といった意見を頂いた。

グループディスカッションでは、「面白かった、同様な企画を希望する」という意見が約8割を占めた。自由意見では、「楽しい、有意義な時間が過ごせた」「貴重な経験を得られた」等といった意見を頂いた。一方、「時間配分や構成に工夫が必要」という意見があった。



(a) ワークショップ感想 (第32回、第35回、第36回、第37回の合計)



(b) グループディスカッション感想 (第33回)

(c) 自由意見 (○：企業の意見 ●：大学の意見)

## 【ワークショップ】

### ＜興味深い・勉強になった＞

- 様々な業界とのコラボレーションを通じて、マーケティングを実践して学んでいく手法は素晴らしいと感じました。失敗すると責任を追及されることが多い時代で、ともすると前例があるか、満足度調査結果を踏まえたのか、という既存の枠を超えることのない、当たり障りない発想ばかりになりがちで、そこを打破するべく熱意を持って取り組んでいることに刺激を受けました。
- 一番印象に残ったことは、在庫削減のお話です。在庫に頼らず、そこで発生した問題を明らかにして解決させるためだということが分かりました。
- デザインについて考えることはほとんどなかったため、貴重な講演&ワークショップで有意義だった。

### ＜業務の参考にしたい＞

- 現在、営業や商品開発の業務に従事していないが、発想を柔軟にもちビジネスを創造していく観点・スキルは、現在弊社でも必要としているものであり、ご紹介いただいた事例は、若手社員の研修にも非常に参考になる内容でした。
- 見えない部分の競争力QDCFは初めて聞いた言葉であり、今後の業務に活かせると思う。

### ＜楽しい、有意義な時間が過ごせた＞

- 自己紹介で同テーブルのメンバーと盛り上がったところで作業に入れたので、様々な意見を活発に出し合いながら試行錯誤できて、純粋に楽しかった。
- シロイヌナズナの生育環境を当てるワークショップはかなりの難しさでありましたが、シロイヌナズナの身になって考えるといろんな環境が想像でき、大変面白かったです。

### ＜もう少し詳しく聞いてみたい＞

- 講演内容は難しかったですが、ワークショップによって理解が進みました。他メンバーとお話するきっかけになるので、とても良かったです。強いて言えば、最初にワークショップの趣旨を理解するのに時間が掛かったので、具体例を1つあげていただくなどすると、更に良かったのではと考えます。
- ワークショップも楽しく、講演も参考になる情報であり、とても有益であったが、一方で、先生のご研究内容をご教授いただく時間をもっと割いていただきたかったと思います。

## 【グループディスカッション】

### ＜興味深い・勉強になった＞

- うまくいかないことについてできない、と決めつけるのではなくみんなでディスカッションすることにより解決へのヒントのかけらでも出てくるとそれが突破口になるかもしれないという可能性を感じました。

### ＜楽しい、有意義な時間が過ごせた＞

- グループディスカッションでは、いつも学生同士でやっているため、企業の方たちと行うことにとても緊張しましたが、テーマについてよく考え、自分の意見をしっかり伝えました。学生である私の出した意見を広げてくださったり、私に意見を求めてくださったので、うれしかったです。

### ＜貴重な経験を得られた＞

- 仕事の様々な場面で、モチベーションの上下には遭遇しますが、それを刺激して行動を変えていく視点が面白く感じました。また参加者の皆さんのアイデアの豊富さや多様性に触れられたのは、貴重な体験でした。

### ＜時間配分や構成に工夫が必要＞

- 参加人数が多く、4人1組ではグループが多すぎたと思う。各グループが発表するなら、1グループの人数を多くしてグループ数を少なくした方が、内容も良くなるし、発表時間も短くなり、良いと思った。

図7 ワークショップ・グループディスカッションへの意見

(d) ワークショップの様子



乾燥パスタやマシュマロ等を使って自立するタワーをつくる参加者



工程に沿って役割を分担しながら紙飛行機を製作する参加者

**図8 左写真(第32回フォーラム)、右写真(第36回フォーラム)**

(e) グループディスカッションの様子



グループ毎に座って意見交換を行う参加者

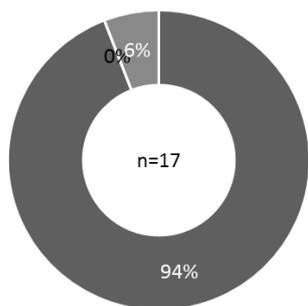


模造紙に書き込んだ内容を発表する参加者

**図9 写真(第33回フォーラム)**

#### 4) 大学と企業との共同発表への意見

大学と企業が共同で研究・開発している取り組みをコアメンバーと共同研究先の企業の方が一緒に発表していただいた。第34回において実施し、多くの参加者から好評を得た。自由意見では、「業務の参考としたい」、「今後の取り組みに期待したい」等のコメントをいただき、多くの関心を集めた。



(a) 大学と企業との共同発表に対する感想

- 1. 面白かった。また機会があれば同じ形式で話を聞いてみたい
- 2. それぞれ別で話を聞いた方がよい
- 3. その他



共同発表の様子

名大・田中先生(左)、トヨタ自動車・布留川氏(右)

(b) 自由意見 (○：企業の意見、●：大学の意見)

##### <興味深い・勉強になった>

○大学での研究成果が企業により実用性のある“製品”になる良い実例を見せていただきました。すべてを開示出来ないとしてもこういった取組のプロセスがわかると可能性の広がりを感じることができました。

##### <業務の参考としたい>

●共同研究がうまくいった例をご紹介いただきましたが、大学側・企業側の両方が本当に望んでいる研究成果を得るためには長い年月が必要な感じが見受けられました。それが可能になるような中長期的な共同研究を行えるように努力していきたいと感じました。

##### <今後の取り組みに期待>

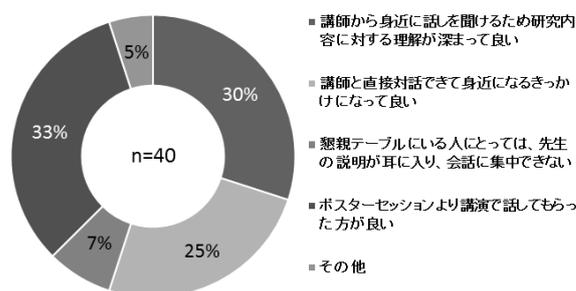
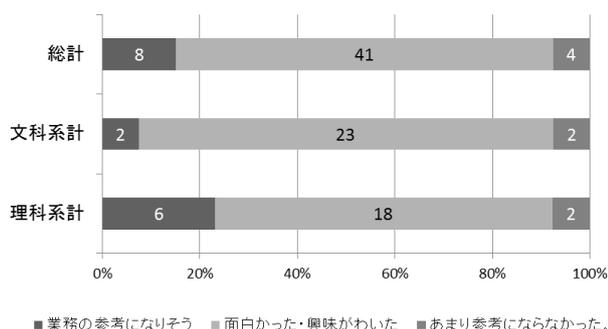
○それぞれの強み弱みを補い合うことで、社会課題を解決していくための手段を生み出すことができる一例として、大変面白かった。特に、ロボットによる運転補助動画のカタチが、今後社会に普及していったら面白いと感じたとともに、そう遠くはない世の中になってきたと思った。

○トヨタ自動車との共同研究ということで興味深く話を聞かせて頂きました。また自動運転技術の向上が、あらゆる分野に新しい可能性をもたらすものであることも今回の発表でより強く感じる事が出来ました。

図 10 大学と企業との共同発表への意見

## 5) ポスターセッションへの意見

今年度より、懇親会においてポスターセッション形式による発表を取り入れ、第33回と第36回において実施した。参加者からは、「面白かった・興味がわいた」という多数の意見を頂くとともに、「講師と身近になれてよい」というご意見を頂いた。一方で、「参加者との会話に集中できない」、「講演で話してもらった方がよい」といった意見も多数いただき、ポスターセッションに対する評価・賛否が分かれた。自由意見のところでは、参加者から主に企画や構成などに対する指摘があり、以下のような意見を頂いた。



(a) ポスターセッションの感想

(b) ポスターセッションを取り入れたことについて

(c) 自由意見 (○：企業の意見、●：大学の意見)

**<興味深い、勉強になった>**

- アシスタントの学生と先生のレベルが高くものすごく興味が湧き楽しい時間を過ごさせて頂きました。サンプリングテスト（実体験）も面白かったです。ありがとうございました。
- 感性に関する評価方法の話聞いて実にもったいないと思った。日本の閉鎖性の犠牲となった研究のひとつ。クラウドサービスと機械学習や深層学習の技術を取り込めば、実用的なサービスになったはず。
- 新しく研究された腰痛治療や、幼児期に大切なのが家庭環境といったことが分かりました。

**<企画・構成に工夫が必要>**

- 懇親会とポスターセッションの同時並行は、もう少し工夫が必要かと思いました。
- これまで同様、ポスターセッションと懇親会の同時進行はどちらかに偏りが出してしまう傾向にあるので、まだ課題があるかと思いました。

**<講演会と懇親会は分けた方がよい>**

- ポスターセッションより講演で聞いた方が理解度があがると思います。懇親会では実演での説明にした方がよいと思います。
- マイクを使うと皆が強制的に手が止まり聞きに入るため、交流できないし、飲食できない。交流したいのにいつまで続くかわからないので待たされる。交流会は交流した方がよいと思います。

図 11 ポスターセッションへの意見

(d) ポスターセッションの様子



においの嗅ぎ分けに夢中になる参加者



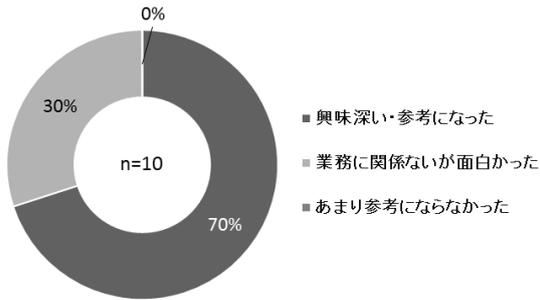
模型や工具に興味を示す参加者

図 12 左写真(第 33 回フォーラム)、右写真(第 36 回フォーラム)

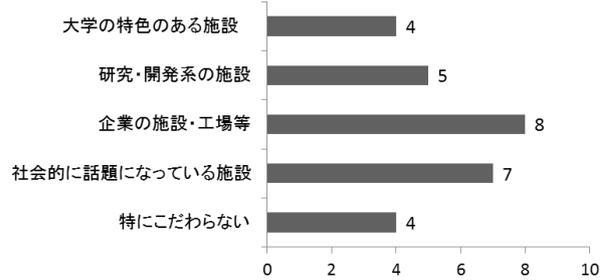
## 6) 見学会への意見

今年度は、参加者の見聞を広める企画として、第37回フォーラムにおいて、名古屋市内で廃家電製品のリサイクル事業を手掛ける企業の施設見学会と講演会をあわせて実施した。

参加者からは、「業務上、参考になった」という意見を多数頂いた。また今後も、「企業の施設・工場等」「社会的に話題になっている施設」を見学したいという意見や、自由意見においても、「施設見学の継続を希望」という意見が寄せられた。



(a) 見学会の感想



(b) 今後、見学したいところ

(c) 自由意見 (○：企業の意見 ●：大学の意見)

### <興味深い・勉強になった>

○工場見学、説明共に家電リサイクルについて認識を深めることが出来た。質問時間も多く有意義であった。

### <貴重な経験ができた>

○あそこまでリサイクル事業が進んでいるとは、驚きです。

### <施設見学の継続を希望>

●見学会はとても良いと思います。これからも開催を希望します。

図13 見学会への意見

(d) 見学会の様子



見学専用デッキから見学する参加者



プラスチックの比重差を利用した分別方法の説明を受ける参加者

図14 第37回フォーラム(グリーンサイクル株式会社 工場内を見学)

## 7) その他自由意見

図 15 自由意見 (○：企業の意見 ●：大学の意見)

### <有意義な時間が過ごせた>

- 今まで異業種の方と話をする機会が少なかった私にとって、大変充実した時間となりました。講演やワークショップがアイスブレイクの役割を果たし、懇親会ではリラックスした雰囲気の中で、多くの方と話げできました。今回は大変貴重な機会をいただきまして、ありがとうございました。
- 今回も大盛況であったので、様々な方と交流することができました。ゆったりと交流することができ、終始楽しい時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。
- 講演は2つとも大変興味深い内容であり、懇親会は会場も料理も素晴らしく、とても良いフォーラムでした。懇親会では、大学の方々とお話することが出来、産学連携のきっかけとしても有意義なフォーラムだったと感じております。

### <多様な気づきや刺激を受ける事ができた>

- いつも様々な企画いただき、ありがとうございます。業務都合で中々参加できませんが、機会を見て参加したいと思います。会社だけでは気づけない視点や刺激を受けたく思います。今後ともよろしく願います。
- よくこのようなイベントについて「気づきの場」になると言われますが、日常を過ごす中で新たに触れるものの少なさだったり、自分自身のアンテナ精度の低さを痛感しました。それとともに自分の思いもよらない角度からやってくる情報がこれほど楽しいものかと実感することができました。貴重な機会をありがとうございました。

### <交流を促す仕掛けづくりを希望>

- 企業だけでなく学生とも接点ができ、個人的にはすごく有意義な会です。上にも書きましたが、ワークショップは今後も企画してほしいと思います。
- 他企業や大学関係者の方々と、本講演テーマについてディスカッションする機会があると、交流しやすいのではと感じました。ありがとうございました。

### <参加者を増やしてほしい>

- 社業以外の専門分野の講演で楽しく学ぶことができました。またそういった知識が仕事にも活かされると思った。欲を言えばもっと多くの企業の方に参加頂けると、お互いの人脈づくりに有効かと考えました。
- なかなか難しい課題ではありますが、もう少し多くの人に集まっていたけるといいかなと思いました。
- 開催頻度、内容、時間配分等すべて良いと思います。参加者がもう少し増えると良いと思う。

### <開始時間を早めてほしい>

- 異業種交流を深めるだけでなく、今回のように大学生を交えて交流があった点はとても良かった。あともう少し開始時間を早めていただきたいとも思いました。(遠方から来る方は帰りがかなり遅くなってしまうため)
- 業以外でフォーラムが開催される時は17時半開始など少し前倒ししていただけると懇親会ももう少しゆっくり楽しめるのではと思いました。

### <企業からの発表を希望>

- 以前は企業の方からの発表もあったので、もし時間が取れるようであれば、各企業の業界における歴史やトピックスなどの紹介があると、さらに面白い会になるかと思ひます。

## 8) 満足度

約6割の参加者から「ぜひ次回も参加したい」と回答をいただき、比較的高い満足度が得られた。

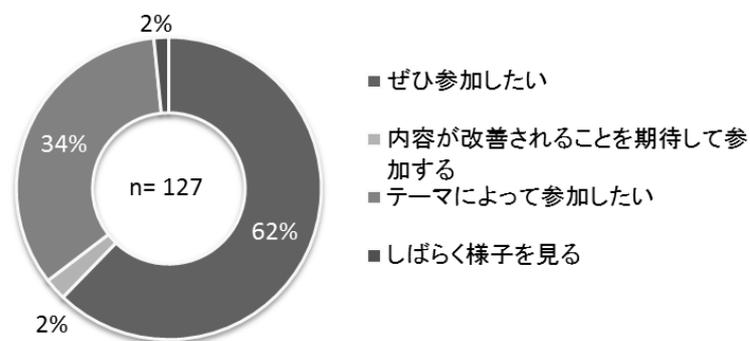


図 16 次回への参加意欲

## 4. 準備会(大学での開催)

偶数月に開催する準備会は、これまで中経連の会議室だけで実施していたが、2016年度よりコアメンバーが所属する大学の会議室でも実施しており、今年度は8月(名古屋工業大学)と10月(中部大学)に実施した。また、会議終了後は学内の研究室等を案内していただき、ご自身の大学の取り組みを紹介して頂いた。

準備会を担当したコアメンバーからは、「大学まで来てもらい、自分の研究内容を見てもらえることはうれしい」「こうした機会を作って頂いたことは有難い」といった感想を頂いた。

### ○第34回準備会(8月 於:名古屋工業大学)



会議の様子



岩本助教(名工大)から説明



生産基礎力学研究室を見学

### ○第35回準備会(10月 於:中部大学)



会議の様子



渡部准教授(中部大)から説明



無人飛行機に触れるコアメンバー(上)  
危機管理情報収集車を見学(下)

図 17 大学での準備会の様子

## 5. フォーラム活動から派生した事例

本フォーラムは、即物的な成果を求めないというスタンスで実施しているが、今年度を実施した活動から自発的に派生した事例を紹介する。以下は、参加者からの依頼で事務局が関係者を紹介したもののや、参加者からのヒアリングで得た情報などであるが、こうした事例は一部であり、実際にはより多くの事例が存在すると考えられる。

図 18 派生した事例（一部）（○：企業の意見 ●：大学の意見）

- フォーラムで講演して頂いた先生のゼミ生と自社の社員で、自社商品の今後についてディスカッションを行った。
- フォーラムに参画したことにより、他団体の類似したフォーラムのメンバーになる機会に恵まれた。
- 地元企業で異分野の会社とお付き合いができるようになった。
- フォーラムで講演された先生に対して講演を依頼し、自身の大学でお話し頂いた。
- 自社の工場へ見学に来て頂いたことで、大学の先生等とつながりを持つことができた。
- 同じテーブルで聴講した企業の方に誘われて、その方の職場を見学させて頂いた。
- 懇親会の場で、先生と中部に関する資料(歴史・文化等)の話題となり、後日、情報提供を行った。

## 6. 総括

2017年度は、前年度から引き続き各大学の特色ある学部の先生の参加をお願いし、異業種・異分野の方にも分かるよう平易な内容で講演して頂いた。また、積極的にグループディスカッションやワークショップを取り入れる等、参加者同士の会話・交流を促す仕掛けづくりにも取り組んできた。さらに、多くのコアメンバーが自身の担当するフォーラム以外の開催日にも積極的に参加いただく等、昨年度よりも大学側からの参加者が増加していることで、企業側の参加者に対してより多くの大学関係者との交流を深める機会を提供できているのではないかと感じている。

一方、参画する大学数の増加に伴い、近年はコアメンバー全員に十分な形でのプレゼンテーションをして頂く機会が提供できなくなっており、今年度は懇親会でポスターセッションを実施していただく等の対応を取り入れた。しかし、実施後のアンケートでは、「講演会と懇親会は別にすべき」、「やり方・企画に課題がある」といった声が相次ぎ、年6回の機会を設ける中で、どのような企画を立案し満足度の高い会を作り上げて行けばよいのか、試行錯誤しながら活動を展開してきた1年であった。

こうした状況を踏まえて、2018年度からは、コアメンバーの任期を2年間とし、コアメンバー全員に十分な形でのプレゼンテーションの機会を確保するとともに、コアメンバー間の交流の機会を増やすため、1年ごとにメンバーの約半数が入れ替わる仕組みとした。これにより、プログラムの内容を弾力的に検討できるようになるため、コアメンバーからの発表だけでなく、企業からの発表も取り入れていく等、産学の相互理解の更なる促進につながる企画を実施していきたいと考えている。

今後も参加者の意見を取り入れながら内容をブラッシュアップし、幅広く参加者を募りながら、即物的な成果を目的とした取り組みとは一線を画した、緩やかな連携・交流の場としてフォーラムを発展・成熟させていきたい。

以上

2018年6月

一般社団法人中部経済連合会

〒461-0008 名古屋市東区武平町5-1

名古屋栄ビルディング10階

TEL : 052-962-8091 FAX : 052-962-8090

<http://www.chukeiren.or.jp/>